

NITS弘前大学センター 令和8年度 充実期 研修講座

組織で解決する力を伸ばす

チーム学校を支える
スクールリーダーのために

令和8年度青森県教育委員会・八戸市教育委員会中堅教諭等
資質向上研修（後期）選択講座の代替としても受講できます



- 青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座です。
- 育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的としています。
- 対象は、学校長の推薦を得た主として30代～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等）です。校種は問いません。参加を希望される方は、所属校の管理職にご相談ください。受講終了後、県教育委員会の研修履歴に記載されます。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組みます。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（2日）を組み合わせで実施します。

主催：NITS弘前大学センター 青森県教育委員会
後援：青森県小学校長会 青森県中学校長会
青森県高等学校長協会 青森県特別支援学校校長会

プログラムの流れ（4～11月）

主として30代～40代の教諭・養護教諭で校長の推薦を受けた方は、パンフレット末尾の方法で申込フォームに必要事項を記入して送信してください。連続する2年まで参加可能です。

- 4月に参加者を決定して受講決定通知書をお送りし、オンデマンド動画でガイダンスと講義を配信します。
- ガイダンスで指示された組織分析と人材育成のワークに各自取り組んだ上で、5～6月にオンライン協議を行います。これらを通して、俯瞰して学校現場を見る視点を養いつつ、それぞれの勤務校をよりよくしていくためのアクション・プランを考えていきます。
- 7月28日の第1回集合研修では、最新の教育事情に関する講義を聴くとともに、それぞれが考えたアクション・プランの案を紹介し合い、実際に進める上での課題や考えられる工夫について、教職大学院の教員も加わったグループで協議していきます。
- 8月には、希望参加のオンラインの実践事例コンサルテーションが、4回程度開催されます(まったく参加しないことも、すべて参加することも可能です)。昨年度の参加者が実施したアクション・プランについて話を聞き、その上で、各自の進めるアクション・プランのヒントになるような協議を行います。また、「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」のオンデマンド講義の配信と、それを受けた自由参加のオンライン・コンサルテーションも行います。
- 9～10月は、複数日程で設定されているオンラインのコンサルテーションに、参加者が都合のよい日時を選択して参加します。1回は必ず参加、希望する方は2回まで参加できます。それぞれのアクション・プランの進捗状況を確認しながら、教職大学院教員が助言を行います。
- 11月26日の第2回集合研修では、それらのアクション・プランの実践報告を行うとともに、組織の中核を担う世代に求められるものについて協議していきます。

アクション・プランの実践事例

令和7年度のアクション・プラン実践事例から5つを紹介します。

- 《「いつでも・どこでも・誰とでも」気軽に相談できる環境づくり》気軽に相談できる環境づくりを目指して、①校内研修でワールドカフェ方式を取り入れ、②ロイロノートの共有機能を使って、教室掲示や学習記録の共有化を試みた。全体研修では学年やブロックの縛りを外した座席づくりをして、ワールドカフェを行った。また、指導案検討の回でも、初めの15分程度と決めてワールドカフェでの意見交流を行い、普段あまり話さない人も含めて様々な人と話すことができ、コミュニケーションのきっかけ作りとなった。さらに、様々な視点や考え方で検討することで、自分たちの見方が固定化されていたことに気づき、指導を見直すことにもつながったという声もあった。
(十和田市立南小学校・澤田しおり先生)
- 《「自分判断し、対応する力」を育むセルフケア教育の実践》「生徒が安心できる場所」としての保健室を実現したいが、来室する生徒が増え一人ひとりに丁寧に関わることが難しくなっている。そこで、生徒が自身の心身の変化に気づきセルフケアの力を高める取組として、小学校6年生との身体測定を通じた交流、びあるームや学習支援室との情報交換、中学生の生活習慣チェックやセルフケアだよりの発行に取り組んだ。学校全体で保健室の課題を共有していただき、いろいろな先生方とお話して、職場やそれ以外の方々との繋がりができたことで、視野が広がり、保健室経営にも安心して取り組めるようになった。
(弘前大学教育学部附属中学校・齋藤安衣先生)
- 《国公立大学進学支援アクションプラン》国公立大学や難関私大を志望する生徒が少ないため孤立する傾向があり、進学情報や学習支援機会が十分でない状況を変えたいと考え、農業科・普通科の垣根を払って志望する生徒のグループをつくり、農業高校出身という強みを活かした推薦・探究活動支援を含む体系的・協働的な支援体制を確立することを目指した。同僚の先生方の多忙の状況から、協働的な指導は道半ばであるが、自分の将来についてより具体的に考え、勉強をはじめ探究活動などをしっかり頑張りたいという生徒が増えた。
(青森県立三本木農業恵沢高等学校・岩渕亮二先生)
- 《学校タテヨコプロジェクト～『同僚性』と『協働』で築く学校づくり～》生徒たちは失敗を回避しようとする傾向が強く、教員集団は効率的に仕事をこなそうとする意識から、協働して仕事に取り組む場面が少ない。こうした状況に対し二つの取組を行った。一つは、初任の先生に教務の仕事と年間の流れを理解してもらえるようにするため、今日の日程と今週・来週の日程のスライド作成を任せて支援し、生徒ホールのモニターで提示するようにした。もう一つは、生徒たちに本校の魅力や学科の学びの面白さなどを中学生に伝える動画「未来の後輩へ」を作成してもらい、さまざまな場面で活用した。
(青森県立三本木農業恵沢高等学校・附田紀子先生)
- 《特別支援教育における「特別の教科道徳」と「道徳教育」の実践力を高めるための校内研究の取り組み》2年目となった校内研究をさらに充実したものとするため、①より多くの先生が主体性をもって取り組めるように授業者を昨年度より増やし、②各学部の類型で小グループ（6名程度）を作って、研修部の校内研究係が1人3グループ程度を目安にファシリテートする体制を整え、③何をもって児童生徒が「考える力を発揮しているのか」を定めて評価することができるようにした。外部機関と連携し助言をいただくことで道徳教育の専門性向上が見られただけでなく、研究協議や研究授業を通じて、教員同士が互いの実践を学び合う協働的な文化が形成された。
(青森県立七戸養護学校・木村良子先生)



令和7年度参加者の声

普段の学校生活では、立ち止まって考えることや、1つの物事を深く考える時間がないと思ってしまいがちですが、研修としてアクションプランを考えて実行する課題があったからこそ、取り組むことができ、深く考える機会になりました。ミドルリーダーとして、上の先生と、若手の先生をつなぐ役割を果たしながら、自分がやってみたい、やったらもっと良くなるかも、と思うことには積極的に取り組んでいきたいです。今回は、このような貴重な研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。

自分に足りない部分「コミュニケーション力」や「行動力（積極性）」を補うという実践するよう背中を押してくれるような研修でした。コンサルテーションでも優しい応援と適切な助言をいただきました。ありがとうございました。

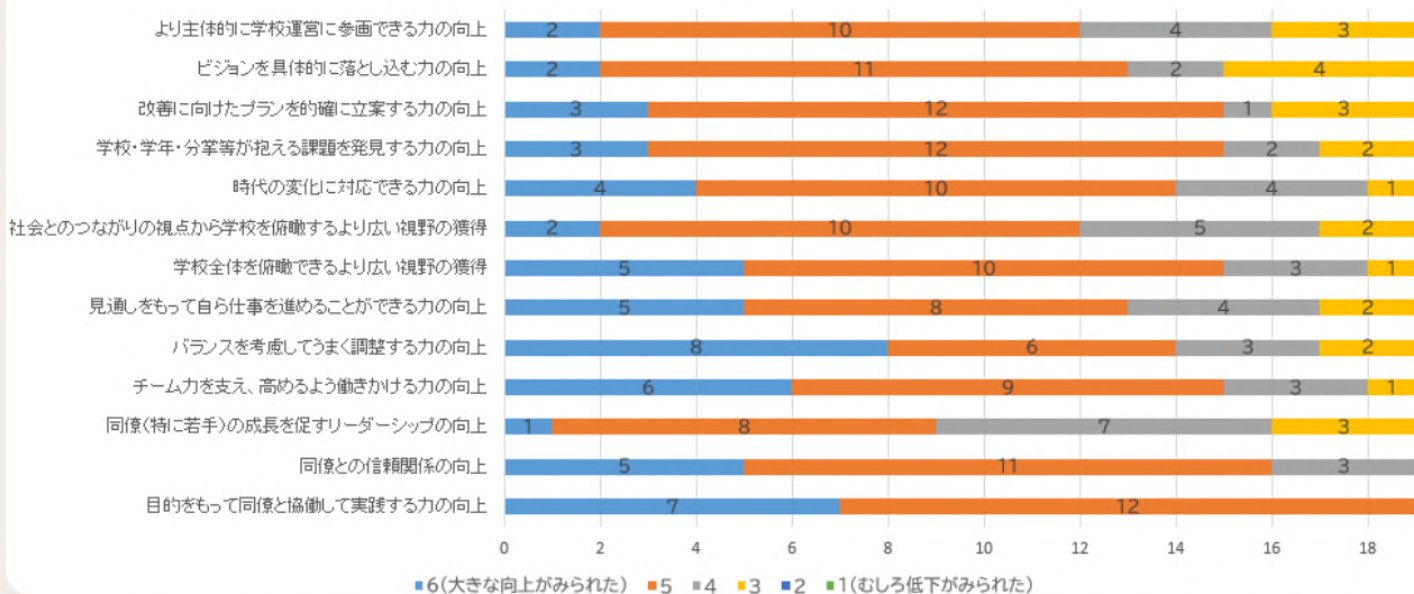
研修受講のお話をいただいた時、自分が受講してよいものなのか少し不安を感じていました。一緒に受講した先生方の指導力や意識の高さにつられて、自分も少し成長できたのではないかと思います。これからはまた各自で実践や経験を積み重ねていくことになりますが、一期一会に感謝し研修の日々を忘れることなく精進していきたいと思います、ありがとうございました。

ミドルリーダーとしてと言われても何をしたいのか分かりませんでした。が、どのようなことを求められているのかや、自分には何ができるのかを考えるよい機会となりました。この研修で学んだ方を今後の働き方に生かし、学校全体を俯瞰して見て、実践できる教員になりたいと思いました。たくさんの学びの機会をありがとうございました。

この研修は、講師の先生がおっしゃっていた、まさに『一期一会』でした。久しぶりに再会できた先生、この研修で初めましての先生、私にとっては、この充実期研修講座を通して、他校種の先生方や弘前大学教職大学院の先生方と繋がりを持てたことが、一番の財産となりました。対面講義では、広い視野でのものの見方や考え方、多岐に渡る情報や知識をご教授いただきました。特に、講師の先生のご経験豊富な過去のお話を、興味深く聞いておりました。現場やご研究の経験談は、とても説得力がありました。この研修で学んだことや考えたことを、学校に還元していきます。先生方が働きやすく仕事にやりがいを感じられるように、まずは、自分が手本となり先生方を元気にしていけるような存在でありたいです。また失敗を恐れず、失敗も経験として捉え、行動しチャレンジしていきたいと思っています。この充実期研修を進めるにあたり、私たちのために、大変な時間と労力を割いて下さり、本当にありがとうございました。

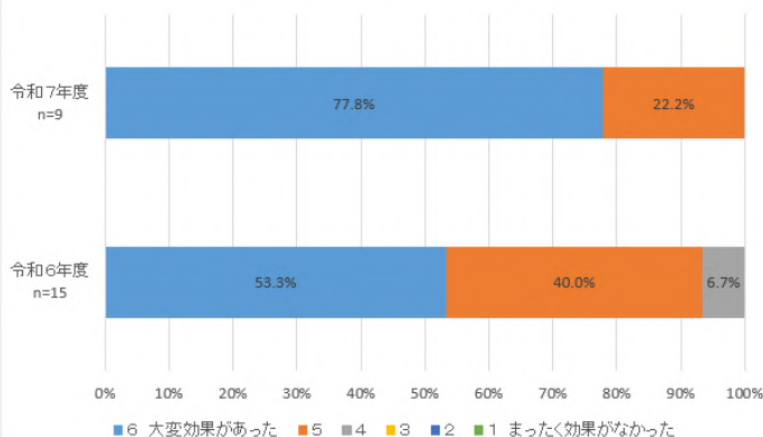
令和7年度参加者の自己評価

充実期研修講座を通して向上した資質・能力(6段階・無記名)



令和6・7年度所属校校長による評価

充実期の教諭の資質・能力の向上への効果



- 学校内での自分の役割を十分に理解し、学校課題を意識して業務に取り組めるようになったと思います。(R6)
- 他校の方々との学びの中で、本人が日頃悩んでいた部分が解消され、自信につながった。(R6)
- 学習指導においても分掌業務においてもプラスアルファを求めようとする姿勢が伺え、頼もしさを感じています。(R6)
- 学校課題が何であるか、その解決策としてどのようなことが考えられるかなど、これまでは学級や学部中心の意識が学校全体に向けられたことが大きい。(R7)
- 分掌の主任としての自覚をもち、他の職員との対話を大切にし業務にあたる姿が多く見られるようになった。(R7)
- 他校の教諭と関わることで様々な情報を得る機会となり、校内の指導においてもとてもモチベーションが上がり、パフォーマンスが伸びた。(R7)

日程及び内容

～3月31日		受講希望者の申込(申し込み方法は下記参照)
4月中旬		受講決定通知書とオンデマンドの案内を送付
4月中旬～5月上旬		オンデマンドによるガイダンスと講義 1 時間30分 ●ガイダンス ●講義「令和の日本型学校教育とLearning Compass 2030」 研修動画視聴30分+ワーク 1 時間30分程度 ＜いずれも勤務校で各自の都合に合わせて実施＞
5月12日(火) 15:00～16:00		受講生・教職大学院教員顔合わせ(オンライン)
5月	後日提示する3つの日程から選択	協議 (オンライン) ●勤務校の内外環境の分析ワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイディアの共有
6月	後日提示する3つの日程から選択	協議 (オンライン) ●人材が育つ学校づくりワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイディアの共有
7月28日(火) 9:30～16:00 青森県観光物産館アスパム		第 1 回集合研修(対面) ●講義「子どもや家庭の背景と外部連携のために」 ●講義「勤務校で新たな実践を作り出すために」 ●グループ協議「アクション・プランを語り合おう」
7月末		オンデマンドによる講義 ●「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」
自由参加 ※	8月 5回実施 各 1 時間30分	実践事例を踏まえたコンサルテーション(オンライン・4回) 事例提供:昨年度受講生、教職大学院修了生等 ●「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」 コンサルテーション(オンライン・1 回)
8月下旬～11月中旬		各勤務校にてアクション・プランの実践(各自)
9月～10月 複数日程から1～2回選択		教職大学院教員によるコンサルテーション(訪問又はオンライン)
11月26日(木) 9:30～16:00 青森市内会場		第 2 回集合研修(対面) ●アクション・プランの実施報告と協議 ●講義「学校組織の変容に向けて」 ●協議「ミドルリーダーとして組織を動かすときに重要なこと」 ●省察「研修をとおした自身の変化とこれからの5年」

※自由参加については、参加しないことも、複数選択することもできます。 ※参加無料です。集合研修の旅費は当方で負担いたしません。

申込方法

右記二次元コードから直接、またはNITS弘前大学センターHPの研修講座一覧より申込フォームにアクセスし、必要事項を入力して申し込んでください。

なお、青森県・八戸市教育委員会の中堅教諭等資質向上研修（後期）選択講座の代替として受講を希望する場合は、先に右記申込フォームより申し込み、弘前大学より受講可能である旨の連絡メールを受け取ってから、令和8年4月10日までに別途教育行政機関にも届出を提出してください。

令和8年度
充実期研修講座
申込フォーム



NITS弘前大学センターHP <https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/application-form.html>

申込締切：令和8年3月31日（火）

お問い合わせ先

NITS弘前大学センター事務局

Tel：0172-39-3333

Email：nits-hirosaki@hirosaki-u.ac.jp